



# 日ごろの近所付き合いが身を守る!! 育てよう地域の力「自主防災組織」

日ごろからの近所付き合いを促進

## むさし野自治会自主防災組織

むさし野自治会自主防災組織は、昭和60年に発足し、現在主に13人の役員によって運営されています。

むさし野自治会自主防災組織の特徴は、毎月第3土曜日に地区内の防災・防犯パトロールを実施しているところにあります。この時に地区内に設置されている『ホース格納箱』の確認と『ホース』の点検を欠かさず行っています。このことについて会長の秋庭利弘さんは「以前地区内のホースの格納箱をいたずらされたことがあります、それ以来パトロールの時には、必ずすべての格納箱をチェックすることにしました」と話してくれました。

また、パトロール時のホース点検では、皆でホースを延ばしてみるそうです。「月に1回ですが、普段からホースの出し入れを行い、ホースに慣れておくと、いざという時にすくに使うことができるようになるのです」と秋庭会長は話します。以前、地区内で住宅火災が発生した時に、地区内住民の見事な連

携で消防車が到着する前に、ほぼ鎮火させたそうです。

「私は普段から地区内の人には、せめて『向こう三軒両隣』くらいの付き合いはしてくださいと話しています。また、近所の人と話をするとき、犯罪などを抑止する目的で、できる限り家の外で話すようお願いしています」と秋庭会長は話してくれました。

むさし野自治会では、日ごろからの近所付き合いと繰り返し行われる啓発が地区の防災を支えているといえます。



多くの人が参加して行われた消火訓練の様子

## 名山歴史散歩

文化財シリーズ 240

### 桂木山

～古代から続く  
信仰と景勝の地～

滝ノ入桂木地区の地名は、江戸時代に編纂された『新編武蔵風土記稿』によると、奈良時代の高僧・行基が滝ノ入の地に行脚に訪れた際、その風景が大和国（現在の奈良県）葛城山に似ていることから、「桂木（かつらぎ）」と名づけたことに由来しています。

また、桂木観音堂に残る『桂木寺略縁起』には、行基が桂木で造った仏像のご利益が評判となり、その恩により7つのお堂が建てられたと記されています。

全国の行基伝説伝承地と同様に、桂木地区には桂木観音や桂木寺の仏像など、古代まで遡る仏教関連の秀作があります。

古くから信仰の場であった桂木山は、優れた景勝の地でもありました。

『新編武蔵風土記稿』では、「ここより房総、常陸、上下野州、あるいは秩父の山々などまのあたりにみわたされたり、また近くは川越城、

伊佐沼など眼下に見えり」と記されています。

『新編武蔵風土記稿』の記述から、当時は眺望を遮るものがなく、現在の千葉県の房総半島や茨城県、栃木県、群馬県など関東一円を見渡すことが可能だったようです。

現在は、東京の新宿副都心やスカイツリーなど、有名な高層建築をはっきりと見ることができません。初日の出の際には、カメラに収めようと毎年多くの人たちが桂木山を訪れます。

現在の桂木山は、『新編武蔵風土記稿』のころと見たせざる景色は大きく変わっていますが、昔と変わらぬ地域の信仰の場であり、また毛呂山町有数の景勝の地です。ぜひ新緑の桂木を歩いて見てはいかがでしょうか。



桂木展望台からの眺望